

特別支援教育実践マニュアル

保育園・幼稚園・小学校・中学校版

<No.17>

～ 発音の発達につまずきのある子へのサポート特集号 ～

特別支援教育実践マニュアル<No.17>をお届けします。
人は、生まれた時から周囲の人の言葉を聞いて育ちます。
成長するにしたがって、様々な発音ができるようになり、小学校に入学するころには、母国語のほぼ全ての音を発音できるようになります。

しかし、クラスの中に、赤ちゃん言葉が抜けない子や、言っていることが、相手に伝わりにくい子はいませんか？

今回は、そのような“発音の発達につまずきのある子”へのサポートの一例を紹介します。

本マニュアルを“発音の発達につまずきのある子”への支援に役立ててください。

“発音が気になる子” いませんか？

事例 1

発音が未成熟な子

事例 2

発音の誤りが書字に影響している子

事例 3

全体的に言葉が聞き取りづらい子

発音の形成

子どもが、大人と同じ発音ができるようになるまでには、生後おおむね 5~6 年がかかります。そのためには、運動、聴覚、発声・発語器官（肺や口腔器官など）とそれらをコントロールする脳の働きがバランスよく育たなければなりません。

発音の不明瞭さは、全般的な発達の遅れや、難聴、麻痺、口蓋裂など、原因がはっきりしている場合もありますが、原因がはっきりわからない場合があります。



ババババ
マンマン



ワンポイントアドバイス

さまざまな音を発音するためには、舌や唇の動きが上達しなくてはなりません。

よく噛んで食べると、舌や唇の動きが上達します。

例えば、お弁当や給食の最初の 5 分くらいを、「カミカミタイム」といったように、噛むことを意識する時間にしてもよいでしょう。

《発音の完成時期》

年齢	完成する音
~3 歳台	母音（アイウエオ）、パ行、バ行、マ行、タ行（ツ以外）、ダ行、ナ行、ヤ行、ワ、ン など
~4 歳台	カ行、ガ行、ハ行 など
~5 歳台	サ行、ザ行、ラ行、ツ など



子どもたちの発音をチェックしてみて！
しばらく様子を見て、
変化がなかったら、
ご相談ください。

《発達の過程でよくある誤り方》

音	誤り方
カ行	タ行、チャ行
サ行	タ行、チャ行、シャ行
ラ行	ダ行、 または省略されて母音になる
ツ	チュ



「キ」が「チ」、
「ケ」が「チェ」に
なることも多いです。
字を書くとき発音につられて
間違えることもあります。
（事例 2 参照）

発達の過程でみられる誤り方以外に、**異常構音**と呼ばれるものがあります。異常構音は、歪んだように聞こえる特徴があり、判別が難しい音です。発達するのを待っていても治る可能性が低いいため、専門機関での練習が必要になります。様子を見て、変化がないようであれば、まなびサポートにご相談ください。

事例1

発音が未成熟な子

Aさんは、年長の女の子。正しく発音できない音があります。先生は、早生まれだもう少し様子を見ようと思っていましたが、Aさん自身は、自分の発音が違っていることに気付いていて、自然と声が小さくなってしまいます。

てんてい、
おたかなが いたよ



おさかなが
いたの
せんせいも見に
行こう



サポート例

- ① 誤りに気付いても、誤りを指摘したり、言い直しさせたりせず、「そうだね、さかなだね」「せんせいはわかるよ」などと、相槌を打ちながら、正しい音を聞かせてあげてください。
- ② 周りの子が、Aさんの言っていることがわからなかった時は、先生が「さかなだよ」と、さりげなく繰り返してあげてください。

事例2

発音の誤りが書字に影響を及ぼしている子

B君は、小学校の通常の学級に在籍する男の子です。普段の学校生活では、特に問題はありますが、作文を書いてみると、「きゅうり」を「ちゅうり」、「ケーキ」を「チーチ」と書いてしまいます。

ぼくは、ちゅうりと
チーチが
すちです。



いつも書き間違える
けど、どうして
かしら？

サポート例

- ① 間違えて書いた文字を、先生が「きゅうりだね」または「ケーキだね」と言いながら、B君がその誤りに気付けるように、さりげなく訂正してください。
- ② B君に正しい音を聞かせてあげることが大切です。

👉 繰り返し同じ書き誤りがある場合、正しく言うことができるか音読で確認してください。

実は特定の音が誤っていたり歪んでいたりの場合があります。それが書字に影響を及ぼしているのかもしれない。

対応のポイント

- ☆ 言い直しをさせたり指摘したりしないで、さりげなく正しい音を聞かせてください。
- ☆ さりげない支援を続けながら、見守ってください。

事例3

全体的に何を言っているのか聞き取りづらい子

小学校の通常学級に在籍するC君は、おしゃべりが大好きな男の子です。でも、先生は、時々何を言っているのかわからなくて、聞き返してしまうことがあります。



サポート例

- ① 先生が「もう一回ゆっくり言ってみてごらん」と伝えると正しく言えますか？
ゆっくり言うことで聞き取りやすくなるのであれば、先生は「今の話し方はとてもよかったよ」「よくわかったよ」と本人に伝えてください。

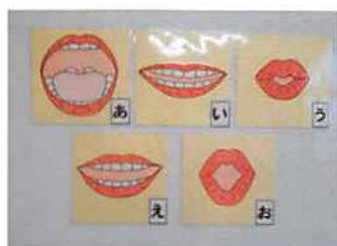
*話すスピードに舌の動きが追いついていないために、不明瞭になってしまうと考えられます。

発音の不明瞭さは、練習を積み重ねることで、その多くが改善します。
練習する際には、専門的な知識や技術がある人に指導を受けることが大切です。

浦安市には、通級指導教室「ことばの教室」が、浦安小学校と美浜北小学校にあります。
ことばの教室では、専門的な知識と技術を持った先生方が、発音の指導をしています。ほかに、吃音がある子、難聴の子など、「ことば」につまずきのある子どもが、学習しています。

ことばの教室では・・・

- ・子どもの課題に応じて、個別学習を積み重ねます。
- ・必要に応じてグループでの学習も行います。
- ・それぞれの子どものニーズに合ったプログラムを組んで指導を行っています。
- ・週1～2回（1回の学習時間は45～90分）通級します（保護者の送迎が必要です）。



「見守っていていいの?」「ことばの専門機関を紹介しようかな?」と思ったら・・・

まず、まなびサポートにご相談ください。

子どもの状態によっては、専門的な練習が望ましい場合があります。

先生方が気づいた（気になった）時点でも、

保護者や子ども自身から相談を受けた時点でも結構です。

まなびサポート事業

教育研究センター〈富岡小学校内〉 381-7960・7961

まなびサポート相談室〈見明川中学校内〉 390-5204